

# 令和4年度

## 基本目標及び各事業の進捗・ 評価状況について（概要版）

---

弘前市文化芸術振興計画

—文化芸術のちからで 時代を拓く人が育つまち 弘前—

# 基本目標・事業評価管理シートの見方①

---

## □指標について

- 各事業の指標については評価を行った事業担当課が設定しております。
- 文化施設の利用者満足度については、現状は各施設でアンケート項目にばらつきがある状態ですが、前回審議会で審議いただいた内容を基に令和5年10月より共通項目を定めるなど統一化を図ってまいります。

## □基準値について

- 基準値は原則として令和2年度実績としておりますが、令和2年度に実績のなかった事業については、実績のあった初年度の数値を基準値としています。

# 基本目標・事業評価管理シートの見方②

## □実施状況欄について

- ・実施状況欄には、事業の実施結果についてのみ記載されております。

## □評価について

- ・自己評価欄は、定量的な視点（数値化できるもの、基準値に対する実績値の推移）だけでなく、定性的な視点（数値では表現できないもの Ex. 事業実施時における創意工夫）も加味した総合評価となっています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった事業は評価対象外としています。
- ・評価の理由欄には、定量・定性双方の視点での評価理由が記載されています。
- ・各事業の評価者は、担当課欄に記載の部署です。

# 基本目標ごとの評価（政策評価）①

---

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、入場制限を行う状況であるものの多くの文化イベント等は数多く開催された。（基本目標 1）
- 文化センターが改修工事で休館中だったが、入場制限を設けながらも各文化団体がイベント開催した結果、昨年度と比較し、文化施設利用者数はほぼ倍増まで伸ばすことができた。（基本目標 1） 
- 市民文化祭や一流芸術文化イベントの開催数も昨年度より増えたことで、参加者及び鑑賞者の数も令和 3 年度 9,684 人→令和 4 年度 16,721 人と大幅に増加した。（基本目標 2） 

## 基本目標ごとの評価（政策評価）②

- 後継者育成事業は開催されたものの、指導者を都市圏から招聘することが多く、新型コロナウイルス感染症の影響により制限のある中での開催となったが、参加人数は170人→446人と増加した。（基本目標3）
- 郷土弘前の歴史と文化遺産への親しみ度合いについては、令和3年度65.6%→令和4年度66.4%と、微増であった。（基本目標4）
- 文化財の公開・活用イベント等の参加割合については、令和3年度23.7%→令和4年度24.4%と、イベント開催が回復傾向となり、目標値を上回ることができた（基本目標4）

# 【基本目標１】 多彩な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実に係る各事業評価

---

- 文化芸術イベントは３年ぶりに開催されるイベントや、各文化施設の自主事業の開催回数が昨年度と比較して増加はしているものの、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民が様々な文化芸術に触れる機会が少なからず失われた。（施策１．２）➡
- 弘前市民文化祭は、開催イベント数が令和３年度１６件→令和４年度２４件に増加し、回復傾向にある。（施策２ 事業No.１-２)-a-①）➡

# 【基本目標2】文化芸術活動の活性化に係る各事業評価

- 弘前市民文化祭は、開催イベント数の増加に伴い、入場者数も令和3年度5,592人→令和4年度11,098人と、大幅に増加した。  
(施策1 事業No.2-1)-a-①) ➡
- 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、若干の事業の中止はあったが、昨年と同様に補助事業を開催できた。(施策1 事業No.2-1)-b-①～⑤) ➡
- 文化施設の利用者満足度は、おおむね90%前後を維持している。  
(施策2 事業No.2-2)-b-①～⑤) ➡

※今年度より、利用者満足度の集計方法統一化により、各文化施設の優位性、改善点などの洗い出しができることを期待。

# 【基本目標3】次代の文化芸術を担う 人材の育成に係る各事業評価①

---

- ワークショップ・育成イベントへの参加等により、昨年度より多くの子どもたちが、優れた文化芸術を体験する機会を得た。(施策1 事業No.3-1)-a-①～③) 
- コロナ禍で培ったオンラインによる講習により、一流の音楽家やダンサーの技術を学ぶ機会の創出を維持することができた。(施策1 事業No.3-1)-a-③、施策2 事業No.3-2)-a-⑤) 
- 全国高等学校ファッションデザイン選手権大会事業は、オンラインを活用しつつ、有観客で実施するという形での開催ができた。(施策1 事業No.3-1)-a-④) 



# 【基本目標3】次代の文化芸術を担う 人材の育成に係る各事業評価②

---

- 市の特産品であるりんごの文化や生産管理技術に触れる機会を、昨年度と同様に創出することができた。(施策1 事業No.3-1)-b-⑤・⑥) 
- 後継者育成に係る事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部中止となったイベントもあるものの、3年ぶりに開催できる事業が増えた。(施策2 事業No.3-2)-a-④・⑥、事業No.3-2)-c-①) 

# 【基本目標4】市民が誇れる文化財の継承に係る各事業評価

---

- 文化財に親しむイベントについては、祭り期間中の開催や市内小学校児童の史跡見学の機会を増やすなどの工夫により昨年度より多くの人々が参加、鑑賞した。(施策1 事業No. 4-1)-a-①～③) 
- 世界遺産公開活用事業を複数開催する等順調である。(施策1 事業No. 4-1)-a-⑤) 
- ハード面での整備、修繕はおおむね計画どおり進捗している。(施策2 事業No. 4-2)-a-①～⑧) 

# 【基本目標5】文化芸術を活かしたまちづくりに係る各事業評価

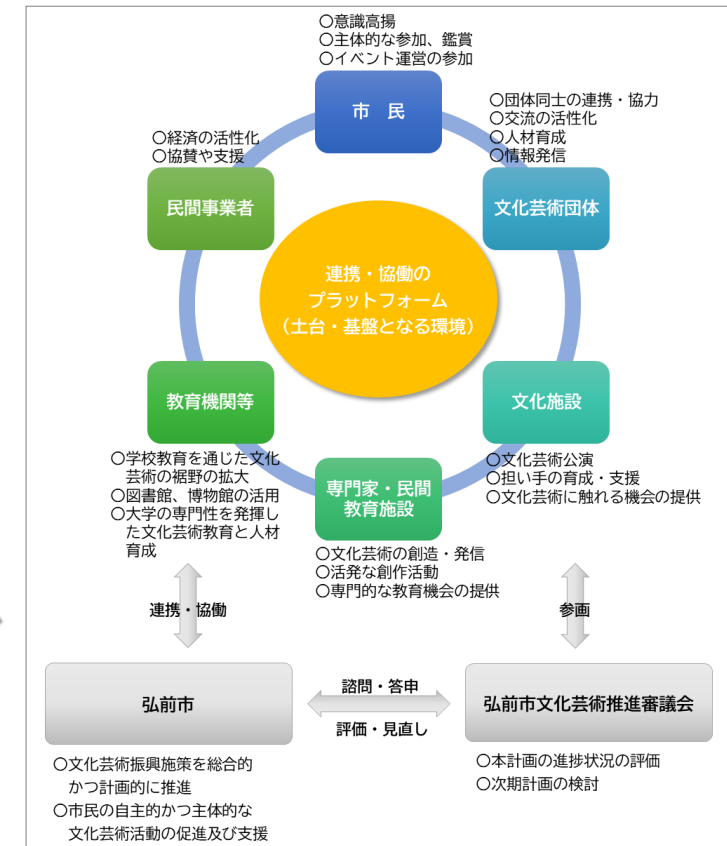
---

- 歴史的資源を観光面のほか産学官金連携に活用する取り組みを行っており、試験的運用から本格運用へと順調につなげている。(施策1 事業No. 5-1)-a-①) 
- 弘前城本丸石垣の積み直し工事に関する見学会の開催を予定し、概ね参加者の希望日で実施することができた。(施策1 事業No. 5-1)-a-③) 
- 国の伝統工芸品である津軽塗の販路拡大等についての取り組みは、一部が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、おおむね計画どおり行われている。(施策1 事業No. 5-1)-b-①) 

# 今後の取り組みの方向性

## □連携・協働のプラットフォーム構築の推進

- より多くの市民に文化芸術イベント等の情報を届けるため、情報の可視化・集約化が必要となる。
  - 文化芸術活動における主催団体の創意工夫について、各団体間で共有化できるよう、主催団体より意見を吸い上げ、公表することで、事例を参考に互いの団体の活動の幅を広げていく。
- ポータルサイトや中間支援体制の構築を進めることで、各団体が主体的に情報を取得できるようにするとともに団体間で連携して推進できるよう体制を整える。



【推進体制図】